2023年10月16日
グリーンコープ
生活協同組合連合会
第三十一期
臨時総会



グリーンコープ連合会
専務理事
西村 大輔 さん

新しい産直びん牛乳の事業に取り組んでいきます

2023年10月16日、グリーンコープ生活協同組合連合会の第三十一期臨時総会が開催され、すべての議案が賛成多数で承認・可決されました。

第一号議案では、グリーンコープとして新たな産直びん牛乳事業を開始するにあたり、びん牛乳の製造、飼料製造、生乳生産の３つの新しい事業について審議が行われました。

第一号議案の内容より３つの事業の概要について報告します。

（第一号議案の内容については11月27日週配布の「共生の時代」臨時号で報告しています。）

※３つの新しい事業の収益と費用は、2023年９月現在で試算した数値です（概算）。今後の検討で事業の収益と費用は変動しますので、ご了承ください。

第一号議案

新たな産直びん牛乳事業について

びん牛乳製造事業

株式会社グリーンコープミルクの設立と出資と借入金の連帯保証

１０００頭規模の牧場がある下郷の台地の麓に、産直びん牛乳の工場を建設します。

一）概要
1）建設場所：大分県中津市山国町宇曽字市場
2）広　さ：敷地面積６，９６７㎡（工場部）延床面積３，５７２㎡　２階建
3）稼働開始：２０２４年12月（予定）
4）製造商品：牛乳２品、カフェミルク１品
5）販 売 先：グリーンコープ生活協同組合連合会・会員生協
6）製造能力：１時間６，０００本
　排 水 量：１日最大１７０トン
※将来、グリーンコープ以外にも販売予定

びん牛乳工場の収益と費用（概算）

	新工場１年目	
	７００万本	
収入（現在と同じ）	15億6,138万円	単価223.054円
原料費（新産直乳価）	10億　540万円	単価234.319円
包装材料費	2,878万円	
運送費（工場発）	1億6,012万円	
人件費他経費		
建物償却費	6,414万円	
設備等リース料	1億5,400万円	
支払い利息	2,280万円	借入金22.8億円
人件費	9,224万円	
物件費	1億3,455万円	
支出合計	16億6,203万円	
剰余	▲1億　65万円	
GC連合運送費（減少）	2,100万円	単価3.000円
non-GMOプレミアム（減少）	1億4,925万円	単価21.321円
差引びん牛乳事業収支	6,960万円	

飼料製造事業

合同会社グリーンコープＴＭＲセンターの設立と出資と借入金の連帯保証

１０００頭規模の牧場における給餌を合理化し、飼料代を低減するために、グリーンコープが産直青果・米の生産者とグリーンコープ商品のメーカーと協力して飼料原料を確保し、ＴＭＲセンターを建設して飼料を製造・供給します。

一）概要
1）建設場所：大分県日田市
2）総 面 積：土地（１５，０００㎡）と建物（１，５００㎡）
　土地２億円、建物１，０００万円
3）製造開始：２０２４年７月（予定）
4）生 産 量：１日60トン（年間１５，０００トン）（週休２日稼働）
5）従 業 員：６名
二）組織・体制
1）名　称：合同会社グリーンコープＴＭＲセンター
2）出 資 金：２７０万円
　業務執行社員
　グリーンコープ生活協同組合連合会（出資額：１２０万円）
　株式会社耶馬渓ファーム（出資額：30万円）
　下郷農業協同組合（出資額：30万円）
　社員
　株式会社鳥越ネットワーク（出資額：30万円）
　石松靖史（阿蘇小国郷生産者）（出資額：30万円）
　リバーグリーン株式会社（出資額：30万円）
〈注〉グリーンコープ生活協同組合連合会が代表社員となって、飼料生産者、酪農生産者（㈱耶馬渓ファーム）、下郷農協、そして、その他の飼料作物生産者、飼料原料提供者、飼料利用畜産生産者などを構想します。
3）総事業費：３．５億円（土地２億円、建物０．１億円、建物改修１．４億円）（設備・機器はリースを基本とします）
4）資金調達：金融機関連帯保証：グリーンコープ生活協同組合連合会（借入金３．２億円）（予定）
5）事業規模（新牧場の乳牛が整って、日量22トン生産体制で完成した場合）
三）ＴＭＲセンターは、まず、「耶馬渓ファーム」の「※乳飼比」が60％になることを目指します。現在の耶馬渓酪農組合の「乳飼比」は67％です。
※乳代に占める飼料費の割合

ＴＭＲセンターの収益と費用（概算）

	科目	金額	備考
収入	飼料売上	７億１，０００万円	１ｋｇ４７．６円×１万５千トン
支出	飼料原料	６億３，０００万円	１ｋｇ４２．０円×１万５千トン
	人件費	３，０００万円	正規職員６名
	建物減価償却費	５００万円	総額１億４，０００万円３０年償却 建物　１，０００万円 土間コンクリ整備８，０００万円 建屋改修費　５，０００万円
	機械減価償却費	１，４００万円	総額９，２００万円　７年償却 撹拌機２５㎥２基２，６００万円 ロール機　３，６００万円 ８トン車　８００万円 ４トン車　６００万円 リーチリフト　５００万円 ホイルローダー　１，１００万円
	物件費	１，２００万円	水道光熱費他
	支出合計	６億９，１００万円	
収支		１，９００万円	

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

連合会臨時総会報告

■発行：グリーンコープ生活協同組合連合会理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒８１２－８５６１
福岡市博多区博多駅前一丁目５番１号
博多大博通ビルディング３階
ＴＥＬ０９２（４８１）７９２３
ＦＡＸ０９２（４８１）７８７６
https://www.greencoop.or.jp/

グリーンコープ
グリーンコープは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

カタログ・チラシ類は回収してトイレットペーパーにリサイクル

生乳生産事業

株式会社耶馬渓ファームへの出資と借入金の連帯保証

５人の酪農生産者が協同し、下郷農協と共に、グリーンコープが連帯して、１０００頭規模の牧場を作ります。

一）概要
1）建設場所：大分県中津市耶馬渓町金吉
2）総面積：約８３．３ha（うち放牧地約２．２ha）
3）開場：２０２４年12月（予定）
4）飼養頭数：全９６８頭（搾乳牛７７５頭、乾乳牛１９３頭）
5）生産乳量：１日22トン（年間８，０３０トン）
6）従業員：30～40名
7）管理棟（食堂含む）も建設予定（食堂は将来、地域住民利用も想定）
※乾乳牛は、乾乳初期（約30日間）放牧地にて放牧を予定。

二）
1）組織・体制
名称：株式会社耶馬渓ファーム
2）資本金：１，０００万円
脇坂伸彦（耶馬渓酪農組合）（出資額：５１０万円）
グリーンコープ生活協同組合連合会（出資額：４９０万円）
3）総事業費：建物３３．４億円
4）資金調達：金融機関
5）連帯保証：グリーンコープ生活協同組合連合会（借入金３０．６億円）（予定）

㈱耶馬渓ファームの収益と費用（概算）

	科目	金額	説明
収入	生乳売上	11億8,982万円	日量約22トン、年間8,094トン 乳価１４７円／ｋｇ
	仔牛売上	8,300万円	年間８３０頭、１頭１０万円
	廃牛売上	3,108万円	年間２２２頭、１頭１４万円
収入合計		13億　390万円	
支出	人件費	1億2,950万円	同規模牧場参考
	飼料費	7億1,389万円	乳飼比６０％
	支払い利息	2,100万円	２０．１億円、年利１％
	地代	83万円	8.3ha（83反）、反１万円／年
	建物減価償却費	3,700万円	14億700万円、38年定額法償却 牛舎　9.0　億円、搾乳舎1.7億円 堆肥舎2.4　億円、事務所0.5億円 飼料庫0.47億円
	設備等リース料	5,500万円	5億3,400万円　10年リース＋利息 搾乳パーラー　1億7,600万円 バルククーラー　3,700万円 哺乳ロボット　1,200万円 換気扇　1,200万円 引水・排水　1億5,000万円 堆肥舎スクリュー　7,800万円 堆肥舎ロータリー　4,000万円
	乳牛減価償却費	1億5,000万円	牛1,000頭、40万円、6億円、4年償却
	その他費用	1億9,237万円	同規模牧場参考
支出合計		12億9,959万円	
収支		431万円	

連合会第三十一期臨時総会で選任された役員

〈地域区〉
宮崎県　日高 容子
グリーンコープ生協みやざき理事

総会終了後、直ちに第三十一期臨時理事会が開催され、日高容子さんが代表理事・会長に互選されました。

連合会第三十一期臨時総会 議案採決の結果

代議員数　216人	賛成	反対	保留
第一号議案 新たな産直びん牛乳事業について	多数	4	11
第二号議案 役員補充選任の件	多数	1	5
第三号議案 議案決議効力発生の件	多数	0	0

質疑応答

Q：組合員アンケートでは、びんは重いという意見も上がっている。牛乳を利用普及していくためには、少量規格の５００㎖や２００㎖も必要ではないか。

A：少量規格については、一般でも利用が少ない。現段階では、利用が少ないため投資しても事業的に成り立ちにくいことが明らか。まず、現在の９００㎖をしっかり作ることを優先し、その上で、今後より一層利用が増えるなど状況が変われば、改めて検討したい。

Q：組合員検討で牛乳関連の商品としてこういうものが欲しいとなった場合に、相談できる余地はあるのか。（複数）

A：まずは今ある商品をきちんと作れるようにするというのが前提だが、すべての生乳を無駄なくグリーンコープの商品にしていくためには乳加工品の製造も必要だと考えており、ヨーグルトとチーズについては検討を始めている。ヨーグルトについては、グリーンコープが下郷農協に投資して工場をつくってもらい、投資した分は商品代から回収していくことを考えている。その他の商品についてはアイデアをいただきながら検討していきたい。

Q：今後の計画では毎年20万本ずつ受注を増やしていくということだが、供給が年々減っている中で20万本ずつ増やせる根拠はどこにあるのか。

A：正確に根拠があるわけではないが、各生協ごとに目標を設定して組合員の加入を増やし、新規組合員に牛乳の利用をしっかり伝えて利用を伸ばしていくことに継続して取り組んでいく。２０２９年４月時点で８００万本の利用を目指したい。

Q：こんなにおいしい牛乳なのに、なぜ多くの人に受け入れられていないのか。何が原因なのか分析されているのか。

A：詳細な分析はできていないが、若い世代の人たちにもっと利用してもらえるようにＳＮＳなども活用して、産直びん牛乳の良さを伝えていきたい。

Q：これまで築いてきた菊池の生産者との関係も大事にしてほしい。また、下郷農協の皆さんともしっかりと関係を築いていきたい。菊池の生産者との関係は現在どのような様子になっているのか。

A：10月26日に組合員やワーカーズと生産者の皆さんが直接話をする場を持つ。（すでに開催し、継続検討中）

Q：貴重な牛乳が飲めなくなることが一番心配。びんのままでは利用が減り続けて飲めなくなるならば、紙パックにしてでも続けてほしい。本日出された意見や現状をしっかり受け止めて検討してほしい。（複数）

A：紙パックは現在予定していない。組合員の思いや疑問に感じていることを受け止めて検討していく。